



イチゴの害虫防除を徹底しましょう

～ハダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、アブラムシ類

気象庁の1ヶ月予報によると、10/26からの向こう1ヶ月は気温の高い状態が続き、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込と予想され、害虫の発生を助長する条件です。このためハダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、アブラムシ類の発生に注意してください。

イチゴ栽培では、特に保温開始後は施設内が増殖に適した環境になるため、この時期における害虫の徹底防除に努めてください。



ハダニ類の被害葉



葉に発生したアブラムシ

防除のポイント

- 1) 初発生を見逃さないよう、葉裏や葉柄、果梗、果蕾および株元などを丁寧に観察し、発生を認めたら早期に薬剤防除を実施し、**葉裏や下葉、株元等にも薬液がよくかかるよう丁寧に散布することが特に重要です。**
- 2) ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響についてメーカーや関係機関の指導を受けるなど注意してください。
- 3) **連続して薬剤を使用すると、抵抗性の出現しやすい傾向がありますので、分類の異なる薬剤でローテーション散布してください。**

表1 イチゴ ハダニ類の主な防除薬剤

(令和6年10月25日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
カネマイトフロアブル	1,000～1,500倍	収穫前日まで / 1回	○	20B
グレーシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	—	30
コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	10日	13
コロマイト水和剤	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	6
スターマイトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	25A
マイトコーネフロアブル	1,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	20D
粘着くん液剤	100倍	収穫前日まで / —	1日	—

注1) 各表のミツバチ※は、ミツバチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針(令和6年版)より抜粋しました。○は薬液が乾けば影響なし、—は記載なし、その他は影響日数を記載しましたが、天候、施設内の環境条件により日数が前後することがあり、注意が必要です。

注2) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 イチゴ オオタバコガ、ハスモンヨトウの主な防除薬剤

(令和6年10月25日現在)

薬剤名	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
アフーム乳剤	○	○	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	2日	6
カスケード乳剤	○	○	4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	15
グレーシア乳剤	○	○	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	—	30
コテツフロアブル	○	○	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	10日	13
ディアナSC	○	○	2,500～5,000倍	収穫前日まで / 2回以内	3日	5
トルネードエースDF	○	○	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	22A
ファルコンフロアブル	○	○	4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	18
フェニックス顆粒水和剤	○	○	2,000～4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	28
プレオフロアブル	○	○	1,000倍	収穫前日まで / 4回以内	1日	UN

表3 イチゴ アブラムシ類の主な防除薬剤

(令和6年10月25日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
ウララDF	2,000～4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	○	29
トランスフォームフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	10日	4C
ベストガード水溶剤	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	6日	4A
モベントフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	23

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。